

令和4年産(2022年産)農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔令和4年(2022年)12月23日〕
〔十勝地区農業協同組合長会〕
〔十勝農業協同組合連合会〕
〔北海道十勝総合振興局〕

1 考え方

本集計は、令和4年産農畜産物に係る十勝管内23農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

2 令和4年の概要

**農協取扱高は、耕種部門、畜産部門双方が減収したことにより、
3, 494億円（前年比94%）**

◇耕種部門取扱高◇ 1, 330億円（対前年比90% [構成比38.1%]）

本年は、生育は総じて平年並みに経過したものの、主に7月以降断続的に続いた多雨・寡照が、多くの作物で収量や品質に影響。

- 小麦は、登熟期間における寡照の影響により、収量が前年を下回ったことなどから、前年比21%減。
- 豆類は、大豆で豊作だった前年の収量を下回ったほか、いんげんで作付面積の減少があったものの、小豆を含めていずれも価格が堅調に推移したことから、前年比1%減。
- ばれいしょは、生産量は確保できたものの、収穫期間まで続いた断続的な降雨等の影響による品質の低下や市場向け販売単価の低下などから、前年比6%減。
- てんさいは、作付面積の減少に加え、夏以降の高温多雨による病害の発生等により収量・根中糖分が低下したことから、前年比18%減。
- 野菜は、生育期間中の断続的な降雨などにより、根菜類を中心に多くの品目で生産量が減少したものの、市況価格が堅調に推移したことなどから、前年比7%増。

◇畜産部門取扱高◇ 2, 164億円（対前年比96% [構成比61.9%]）

- 酪農は、良質粗飼料の影響もあり生乳生産量が前年度を上回った一方、個体販売額が下回ったことなどから、前年比1%減。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が下落したことから、前年比9%減。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

| 区分 | | 令和4年(概算値) | | 令和3年(概算値) | | 対前年比 | |
|-----|-------|-----------|-------|-----------|-------|------|-----|
| | | 取扱高 | 構成比 | 取扱高 | 構成比 | 増減額 | 前年比 |
| 耕種 | 麦類 | 335 | 9.6 | 425 | 11.4 | △90 | 79 |
| | 雑穀・豆類 | 208 | 6.0 | 211 | 5.6 | △3 | 99 |
| | ばれいしょ | 285 | 8.1 | 303 | 8.1 | △18 | 94 |
| | てんさい | 256 | 7.3 | 314 | 8.4 | △58 | 82 |
| | 野菜 | 244 | 7.0 | 229 | 6.1 | 15 | 107 |
| | その他 | 2 | 0.1 | 2 | 0.1 | 0 | 100 |
| | 小計 | 1,330 | 38.1 | 1,484 | 39.7 | △154 | 90 |
| 畜産 | 酪農 | 1,429 | 40.9 | 1,444 | 38.7 | △15 | 99 |
| | 生乳 | 1,269 | 36.3 | 1,262 | 33.8 | 7 | 101 |
| | 肉用牛 | 684 | 19.6 | 751 | 20.1 | △67 | 91 |
| | 豚・鶏 | 43 | 1.2 | 40 | 1.1 | 3 | 108 |
| | その他 | 8 | 0.2 | 16 | 0.4 | △8 | 50 |
| | 小計 | 2,164 | 61.9 | 2,251 | 60.3 | △87 | 96 |
| 総合計 | | 3,494 | 100.0 | 3,735 | 100.0 | △241 | 94 |

※ 取扱高は税抜き。